

2022年度学校評価

自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人百羊学園 昭島幼稚園

1. 本園の特色と教育目標

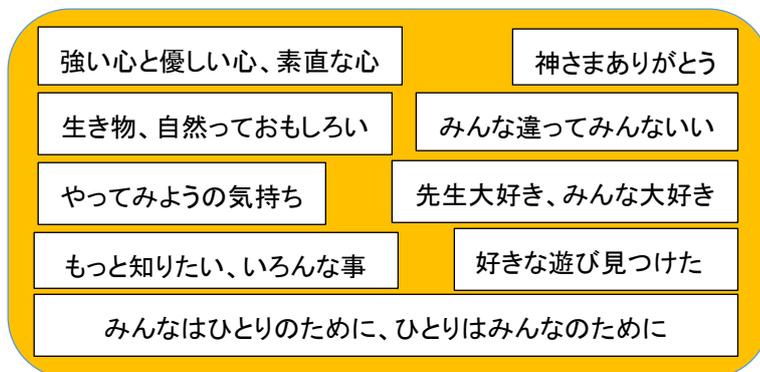
▶キリスト教的な愛に基づく保育の実践

- ・心が育つ保育
- ・個性を認め合う仲間づくり
- ・平和で民主的な生活環境

▶総合的な学びの実践

- ・ゆたかな直接体験
- ・個の充実と幅広い体験

▶家庭と共に歩む保育の実践



目には見えない子どもの心を育みます

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

▶「地域に必要とされる幼児教育施設を目指して」

質の高い幼児教育の実践や、地域の子育て支援の充実を図り、刻々と変化する時代や社会のニーズに合ったサービスが提供できるよう努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの様子
1 教育カリキュラムの充実	A	これまでのカリキュラムを教師全体で見直し、園全体で共有する3年間の教育目標をはじめ、学年で取り組むべき教育課題や段階性を包括した新カリキュラムを作成することが出来た。カリキュラムを見える化することでより全体性をもって保育にあたることを期待する。
2 子育て支援の充実	A	孤独の中の子育てが叫ばれる社会の中で、幼稚園として出来る子育て支援活動について教師全体で協議し、支援の在り方やその具体的な内容について検討することが出来た。
3 教職員研修の充実	A	園単独での研修のみならず、昭島市私立幼稚園協会や自治体、都私幼連などが主催する研修会にも参加できるように情報の共有化や環境を整え、更には仕事と研修の両立をはかるため、受けたい研修をオンデマンドでいつでも視聴できるように環境を整えることが出来た。

評価 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	目の前の子どもへの対応から、いかに幼児教育者としての視野を広げ、先の見通しや目標、その年代で身につけるべき成長課題、更には社会の問題などにも関心をもって保育に臨んでいくかという「幼児教育の専門性」を高めるために、新カリキュラムへの取り組みや研修の機会拡充、更には地域の子育て支援を考えることは大変効果的であり、また意義のあることであった。

評価 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった)

5. 今後取り組むべき課題、次年度への展望

課題・展望		具体的な取り組みなど
1	広報活動の充実	昭島幼稚園に従事する誰もが「昭島幼稚園のミッション（安心・向上・支援）」を自覚的に意識して仕事にあたり、園全体から醸し出される園風として定着できるよう、またあらゆる機会を通して周囲にも発信していきけるよう努める。
2	家庭との連携強化	保育や関わりを通して家庭との連携を強め、園に対する理解や信頼を広げ、また深めていけるよう努める。 父母会の充実、保育ボランティアの拡充など
3	幼小の連携強化	幼稚園と小学校間での情報交換等を積極的に行い、園児の円滑な就学につなげられるよう努める。 教師の小学校見学、園児の小学校訪問、小学生の幼稚園訪問など

6. 学校関係者評価（評価：昭島幼稚園父母会幹事会 / 学校法人百羊学園評議員会）

子どもたち一人ひとりに寄り添い、個性に合わせた指導や関わりを丁寧にしていただき、家庭も安心して預けることが出来た。障がいを持つお友達もクラスの一員として皆がやさしく受け入れ、共に育ちあう姿を見て、「心が育つ保育」の意味がよくわかった。先生との日常のやり取り、クラスだよりや父母会での保育報告、またボランティアで直接関われる機会もあって、子どもの園での様子がよく伝わってきた。

（父母会幹事会）

子どもたちにとって人生で初めて出会う社会が幼稚園であり、その役割や使命には大きな責任があると考え。「子ども達にとってふさわしい生活や活動内容とは何か」、「幼児期に身につけるべき力とは何か」などを保育にあたる教師で吟味し合えたことは大変意味があるのではないだろうか。

また、研修の充実という事でオンデマンドの利用など「研修を受けやすい環境」を整えることが出来たことも良いことである。今後も保育にあたる教職員が研修を通して見識を深め、より質の高い保育を提供できるよう期待する。

（学校法人百羊学園評議員会）